

市議会・モニター意見交換会報告書

- 1 開催日時 令和6年10月17日(木) 10:00～12:00
- 2 開催場所 市役所3階 第2委員会室
- 3 参加モニター 7人
- 4 参加議員 森山喜久、前田浩司、宮本政志、藤岡修美、奥良秀、中島好人、白井健一郎

5 意見交換会の主な内容

【モニター】2021年12月から今年の9月まで3年間、一般質問の回数を調べてみた。12回のうち、一番少ない時で8人、一番多い時で12人が一般質問されている。この委員会の議員で言えば、奥議員4回、白井議員6回、中島議員12回、藤岡議員6回、前田議員4回、宮本議員3回、森山議員3回。

議会改革って何のためにあるのか。議会改革は、いわゆる力の弱い議員が執行部に対抗する、そういう議会にしていこうと改革が始まった。議員の一般質問で検討事項は議会としてどう対応するか議会全体で考えていた。一般質問は、議員に与えられた最大の権利である。議員の権利を放棄していないか。だから、議会の活性化が今、本当に停滞しているとしか思えない。

【議員】一般質問をする議員の人数が少ないという指摘は議員それぞれの考えがあるので総論的に答えることはできない。ただ、私も1期目はほぼ毎回一般質問をやったが、やりながら一般質問で市政がなかなか変わらない、投げかけても答えが返ってこないという無力感みたいなのは感じるがある。南海トラフの一般質問で、山陽小野田市地域防災計画で南海トラフの被害想定を突かせていただいたせいかどうかは分からないが、県で山口県全域の南海トラフに対する被害想定を見直すことになった。その辺はやったかいがあったと感じている。

【議員】行政の課題、執行機関に対して正していったり、市長の政治姿勢を一般質問で明らかにして政治責任を明確にしていく、政策の変更とか議員の方から一般質問で新規政策を提案して実現に結びつけていくのが一般質問のあり方だと思っている。

個人的にはうまく一般質問ができてない。成果も出てない。私は委員会での議案審査を中心に、あるいは一般質問で他の議員がやって大事な箇所です管で扱うところに関しては徹底的に調査研究して、所管で質疑に結びつ

けている。一般質問で政策変更した、政治姿勢を明確にして、政治責任を明確にして追求して変更させたという実績を自分の一般質問で持っていない。結果、回数は減って、委員会の議案審査中心に行っている。言われることは何の反論もできない。

【モニター】議会傍聴された中学生からのアンケート、中学生との意見交換会の中でいっぱい良いことを発言している。中学生との意見交換の内容を取りまとめ、これを議員全員で話をしていないようだが、話し合いをしてほしい。中学生の言ったことは的を射ていると思う。

【議員】せっかく子どもたちを呼んで傍聴してもらって、それに対して意見が出た。中学生議会で一般質問席に立ってやった。それに対して意見が出たのに、議会としては動いていない。これは貴重な意見で、広聴は広く市民から意見を聞いたわけだから、広聴で所管を分けて、やろうと思えばすぐできると思う。

【モニター】一般質問において、この9月議会から議員の持ち時間30分にする話があった。70分あったのを今回、議員の片道質疑質問時間が30分、執行部は無制限である。30分縮めるなんてことは、自分たちの権利を縮めるようなことでやってはいけない。

【議員】一般質問の執行部の答弁時間は時間無制限である。経緯として、まず議長が第19回議会運営委員会の最後に、時間ありきではないが一般質問の時間が70分というのが適当かどうかということも踏まえて、そして通告書も踏まえて、議運でしっかり議論してくれないかという諮問を受けた。その下で、今、試行的に1度だけ30分に議員の持ち時間をした。全議員がやってないので、12月定例会も30分を試行的に行うことになると思う。これに関しては、引き続き議運で議論は行っていく。

6 要望・意見など

【モニター】議員が一般質問で色々聞かれるが「自分が知らないから聞く」ように聞こえる。ある程度分かった上での質問なのかが疑問である。「それはそうですね。」で終わるのではなく、「それ」に対してどのような策ができるのか、「これはできた、これはできていない。では、どうしてできないのか、どうしてできたのか。」を比較検討、検証することで、議員に考えていただきたい。

【モニター】モニターの職務で、議場へ行くが、意外と本会議場に一般市民の方が自由に入れることを知らないと思う。例えば、議会だよりに、「自由に本会議を傍聴してください」という内容を載せて、市民の方が知ると、市政や市議会を身近に感じられるのではないかと思う。

【モニター】本会議で自分の所管しない内容の質疑を十分されて、委員会に持ち込むの

が筋である。本会議の場合は、提案者である市長が出ているので、市長に直接聞ける。

本会議で一人の議員が一つの議題に対して 3 回まで質疑ができる。それは回数だけであって内容ではない。例えば、1 回の質問で 10 項目やっても良い。何故、回数制限があるのかも含めて、本来の議会活動に戻っていただきたい。最初の本会議で質疑して、その箇所を委員会で審議していなければ、再審議を要求できる。最初の本会議での質疑はとても大事である。議員の質問や質疑がかなり減ってきている。議会改革の中で議員の質問や質疑は重要な位置を占めており、議会の活性化は議員の質問や質疑から起こると思う。

【モニター】福田議員が带状疱疹について質問されて、その後、吉永議員さんが一般質問をしたが、執行部から「国の動向を注視すると」それだけで終わっている。なんで突っ込まないのか。例えば宇部市であれば半額負担、そういうこと分かっているのに話が出ない。財政がないとか、そういう話をしたら優先順位とかいうこともあるかと思う。

市長はほとんど回答されない。もう少し市長を引っ張り出すとか、再質問について皆で考えていかないといけない。

【モニター】市長が答弁立たない話で、自分の持ち時間の間に市長が答弁に立たなかったら、市長が立つまで質問しない。立たせることが目的であれば、いろんな手段を使うべきだと思う。

【モニター】例えば、防災問題で言えば、公聴会が開ける。議会が専門家あるいは市民を呼んで積極的に意見を聞いてほしい。昔、厚狭川水害の時に臨時議会を要求し、40 万程度の予算を組んで臨時会開き特別委員会（調査特別委員会）

ができた。その調査特別委員会が被災地に入って市民との意見交換を行い、それをまとめて執行部に提案した。改善措置について議会らしい機能を発揮できた。議会が市民の中に入って、市民の声を聞くべきである。

【モニター】議会カフェは、広聴機能の一つの手段。議会報告会が議会カフェに変わり議会のことを報告する。そこで参加された皆さんに意見を聞くように変わっただけのこと。

【モニター】議員になって、市民のために一生懸命に頑張ってきたというふうに思っておられるのか。有権者の皆さんがこの 3 年間の議員の行動を見て不安に思っているのではないかと思う。

【モニター】今の議会の状態を見て、若い人が政治や議会に関心がないように思える。意欲を持って市政を変えようとか、議会を変えていこうという人が、今のままだったら表れてこないのではないかという気がする。

【モニター】将来にわたって、山陽小野田市をつくっていくための良い議会でありたいという思いが伝わるような議会運営をやっていただきたい。

【モニター】議会基本条例の最大の基本は議会の活性化である。議会として市民の意見

をもっと積極的に反映するべきであり、いろんな立場、いろんな地域から出てる人達が自分達で意見を一致させて最大公約数で執行部に変更を迫ろうというのが議会の役目である。意見が違うから賛成多数で全部決めればいいというのは、それは議会ではない。議会改革は意見の違う議員が議論をし、意見を最大公約数でまとめて執行部に対抗しようというのが議会である。

【モニター】一般質問が権利ではないっていう議員がいたら、地方自治法には何て書いてあるのか、ここから出発すべき。

7 今後、検討すべき意見

【モニター】議会傍聴された中学生からのアンケート、中学生との意見交換会の中でいっぱい良いことを発言している。中学生との意見交換の内容を取りまとめ、これを議員全員で話をしていないようだが、話し合いをしてほしい。中学生の言ったことは的を得ていると思う。